

関連項目：教育活動プラン①、④

なかよしグループ活動による自己有用感の育成

目的

本校はほとんどの学年が単学級であり、お互いのよさを認め協力し合うための場が限られる傾向にあります。また、アンケート調査によると、高学年に比べ中学年は自己有用感が低く、全ての児童が自己有用感を感じることができる工夫が必要であると考えました。そこで、なかよしグループ(異年齢集団)活動を積極的に取り入れ、自己有用感を高めることとしました。

内容

● なかよしグループの編成

なかよしグループは、各学級ごとに編成された12のグループを基に、担当教師が職員の意見を聞きながら全学年を取りまとめ、1年生から6年生までを含む12グループを編成しています。

● なかよしグループによる活動例

・校外学習

春の校外学習は、新入生歓迎遠足として行いました。なかよしグループごとに徒歩で目的地まで行きます。目的地に到着後グループ対抗大声大会やゲームを楽しみます。その際には、結果ではなく過程を重視します。上級生が中心となって作戦を練ったり、小グループに分かれて練習したりする場を十分確保しました。昼食後は学級(学年)ごとに活動しました。

・長縄飛び

毎年2月に校内縄跳び大会が行われます。大会は、個人で参加する競技と、集団で参加する長縄跳び(8の字大縄跳び)があります。この長縄跳びをなかよしグループで取り組みました。練習は、12月から毎週金曜日に隔週で行われる体育集会で行いました。高学年の児童が進んで縄を回したり、タイミングが取れない子の背中を後押ししたり声をかけたりするなど、下級生に対する心遣いがたくさん見られました。毎回記録をとることで、各チームの向上が明らかになり、子どもたちの励みになっていました。大会当日は、多くの保護者も来校し、応援してくださいました。



・校種を超えた活動例 (綾歌学校群リーダーキャンプ)

夏休み、町内のキャンプ場において、町内3小学校及び中学校の代表児童・生徒による一泊二日のリーダーキャンプを実施しました。テント設営、ゲーム、野外炊事、キャンプファイヤーなどを行いました。活動を通して、他の小学校児童や中学生との交流は言うまでもなく、中学生が小学生を温かくサポートする姿が随所にみられました。小学生は中学生から、先輩としての心構えや思いやる心について学ぶ場となりました。



成果

右のグラフは「自分にはよいところがありますか」という質問の結果です。低学年から中学年にかけての肯定的割合が増加しています。このことから、異年齢集団活動を積極的に取り入れることは、幅広い学年で自己有用感を高める手立ての一つとなることが推測されます。その他、普段の休み時間でも、学年を超えた交流がよく見られるようになりました。

